

## 第 25 回 公開シンポジウム 「地域から見える世界」

日時： 2017 年 6 月 24 日（土） 14:00-17:30

場所： 東京大学駒場 I キャンパス 18 号館ホール

報告：

1. ベルリンから見るヨーロッパの複合危機  
森井裕一（地域文化研究専攻）
2. ブレグジットから見るイギリス外交の変容  
小川浩之（地域文化研究専攻）
3. 自己の内なる外国人 — 他者との共生の一モデル  
鈴木啓二（地域文化研究専攻）

2016 年は、シリア難民の受け入れをめぐる EU 内の足並みの乱れやトランプ米大統領の登場に象徴されるように、グローバル社会への反動が顕著に現れた年でした。その一方で、知や科学技術に対する不信を強調した言説が公然と出回るようにもなりました。人の多様性を重んじ、研究を進めるという大学の知の営みそれ自体が脅かされています。

本シンポジウムは以上のような現状を踏まえ、ドイツ・イギリス・フランス各地域からの報告と、アメリカ、アジア地域研究者からのコメントを通じて、このような混沌とした世界を理解するための地域横断的・学際的な視点を議論し、現実に立ち向かう知を得ることを目指しました。

第一部ではヨーロッパに関わる三つの基調報告がなされました。森井裕一は EU およびドイツの歴史的展開を概略した後、現在のドイツ政治が抱える構造的特徴と EU の展望を示しました。続く小川浩之は戦後イギリス外交の基本方針であった 3 つのサークルという概念を紹介し、EC 参入や EU 離脱への歴史的視点を提示しました。最後に鈴木啓二は思想家・文学理論家ジュリア・クリステヴァを取り上げ、文学における「他なるもの」の問題を政治・社会での「他者」との共生の問題に接続させる彼女の大胆な試みを描き出しました。

第二部では、研究対象地域を様々にする 4 名のコメンテーターから、自分の研究に引き付けてのコメントが提出され、地域とは何か、地域文化研究の可能性は何かといった多様な点についてフロアからの質問も交えて活発な議論がなされました。

昨年を引き続き本シンポジウムでも、2015 年に発足した院生フォーラムと連携してコメンテーターの選出や事前準備を行いました。今後もフォーラムとの連携を深めながら、前期課程学生・後期課程学生・一般の方々の参加もいただけるシンポジウムを目指していきます。

## Photo Gallery



